

車、公共交通機関、自転車・・・様々な移動手段の共存を目指して

市街地の外延化の進行

松山市は、愛媛県の県都として、また四国の中枢拠点の一つとして発展を遂げてきました。

市内には、全国的に有名な「道後温泉」をはじめ、「松山城」や小説「坂の上の雲」をモチーフとしたミュージアムなど、数多くの観光資源が点在し、これら松山の歴史・文化を活かしたまちづくりを展開しているところ。

しかしながら、一方で、中枢拠点としての機能向上は、周辺市町からの従業人口の流入増加や松山市周辺部の居住人口の増加をもたらし、平坦地が多いという地勢的な特性も相まって、市街地の外延化が進行してきています。



高齢化の進展と中心市街地の衰退化



近年では市街地の外延化による福祉等の都市コストの増大や、商業施設・公共施設の郊外立地等による中心市街地の衰退など、都市構造とそれを支える都市交通・市街地整備に関する課題が顕在化しつつあります。

しかし、急速に変化する社会・都市環境に対して、従来の予定調和的な交通計画では総花的な施策展開をせざるを得ず、都市の特徴を活かした戦略的な都市像を形成していくためには、施策の「選択と集中」及び、施策の「複合的な展開」等を図っていく必要があります。また、これらのマネジメントを可能とする交通戦略の策定が急務となっています。

都市の活性化に向けて「モビリティ」を考える

こうした中、松山市では、学識経験者や関係行政機関、交通事業者、その他関係機関で構成される「松山市交通戦略策定協議会」を立ち上げ、平成19年度に実施した交通実態調査（パーソントリップ調査）結果等に基づき、松山市における現状、交通行動や土地利用など基礎的な空間整備の状況、並びに将来の都市交通の課題を把握するとともに、これら課題に基づき、将来の総合的な都市交通体系のあり方や具体的な計画を検討してきました。

このたび、松山市総合交通戦略として策定・とりまとめを行いましたので、市民の皆様へご紹介するとともに、今後は、この計画のもと、都市の活性化に向けて、各種施策の実践に取り組んでいきたいと考えています。



集約型の都市構造の形成と既存ストックを活かした交通軸

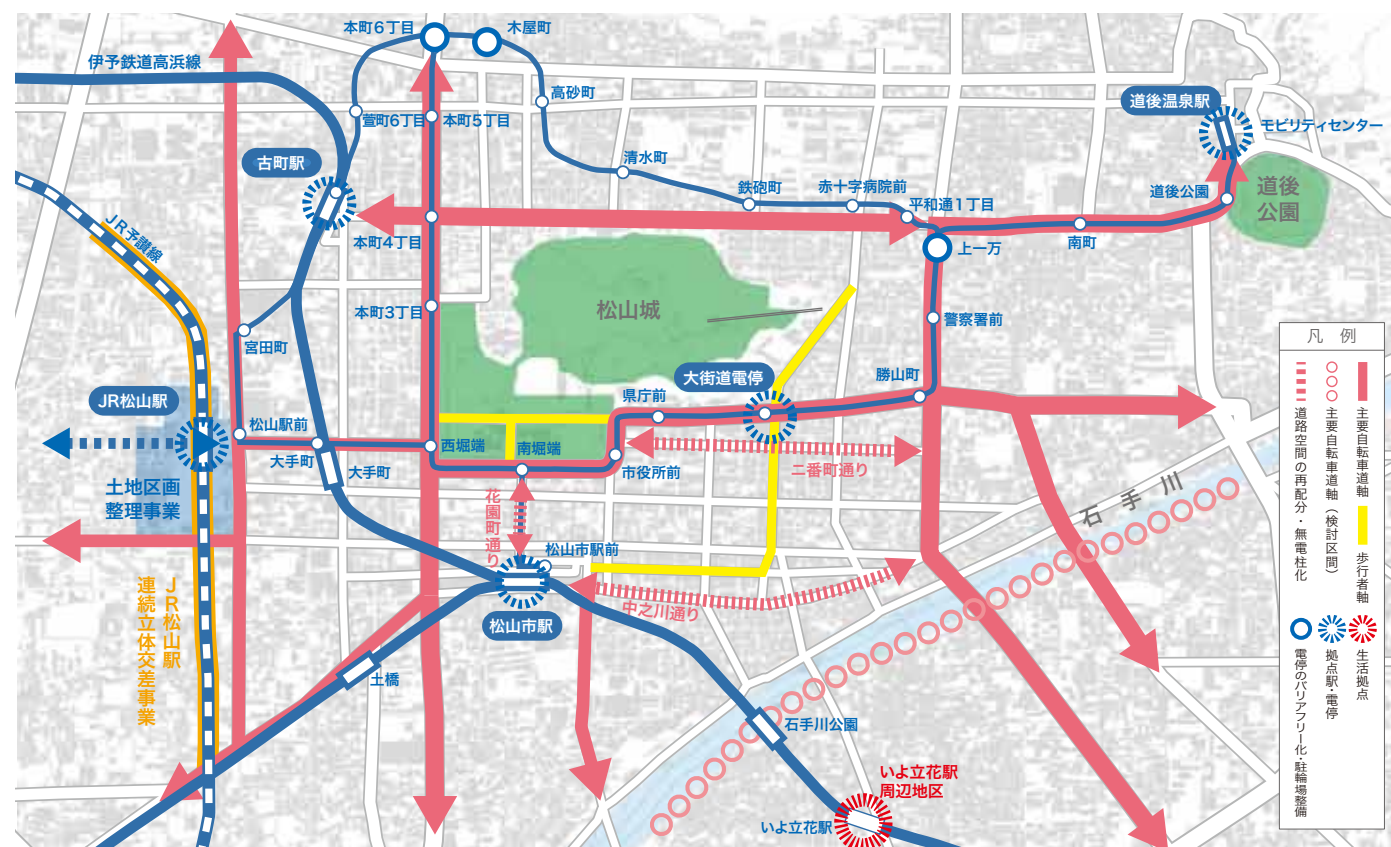
将来における人口減少や、高齢化の進展を視野に入れ、様々な都市機能を有する松山市中心市街地の拠点性を一層高めるとともに、移動の利便性の高い、主要な郊外駅周辺地区を生活拠点として位置づけ、人口や都市施設の集約を図っていきます。

また、本市の広域的な玄関口となる松山空港や松山観光港、松山駅、松山ICなどを広域交通拠点とし、都心地区や生活拠点とあわせて、拠点相互間の連携を高めるための、施策展開を進めていきます。



都市の骨格を形成する幹線道路の整備

他都市との広域的な連携や、移動コストの少ないコンパクトなまちづくりの形成、円滑な交通処理、並びに市街地内の良好な生活環境の向上等に向けて、財政面に配慮しながら、松山外環状道路の整備や北久米和泉線、千舟町古川線等の都市計画道路の整備など、必要な道路整備を進めていきます。



高齢化社会を支える、公共交通機関の整備を推進

松山市は、他都市に比べて公共交通機関が充実していると言われるにも関わらず、現在の公共交通機関の利用分担率はわずか4%にすぎません。しかし、本市の高齢化率はそのまま進むと20年後には30%を上回り、40年後に至っては、約40%にまで達すると予測されており、公共交通機関の利用が不便な地域では、思うような移動ができなくなることが懸念されます。

このため、伊予鉄道余戸駅や久米駅、いよ立花駅など主要駅における乗り換え利便性の向上や施設のバリアフリー化、フィーダーバスの導入など、公共交通機関の利便性を高め、利用を促進していきます。



新たな駐車場施策導入による街の賑わいの創出

中心市街地周辺部への駐車場（フリンジ駐車場）の整備により、中心市街地への車の流入を抑制するとともに、特定道路への駐車場出入口の抑制や、駐車場の集約など、新たな施策の導入により、うろつき車両の削減や、快適な歩行環境の形成、良好な街並み景観と活力あるまちの実現を目指します。



道路の再配分により、道路空間を有効活用

自動車の交通需要は、これからの人口減少とともに、今よりも減少することが予想されます。一方で、松山は、平坦な地形や温暖な気候条件から自転車利用に適した地域と言われ、全国的に見ても利用率はトップクラスです。

都市内の限られた道路空間を有効に活用していくため、道路空間を再配分し、自転車レーンを設置するなど、都市内における移動の多様性を確保していきます。



歩行者・自転車を優先した都心地区・道後地区

中心市街地の活性化、並びに、都心集約型のまちづくりを図っていく中、都心地区においては、歩行者専用空間としての松山中央商店街を中心として、交通結節点（鉄道駅、電停、バス停）や主要施設間を有機的に結ぶ路線を歩行者軸として位置づけ、景観に配慮しつつ、歩行者ネットワークを形成していきます。

観光拠点として、本市の活性化に向けて重要な役割を担う、道後地区においては、玄関口である道後温泉駅前の整備により、安全・快適な歩行者回遊動線・滞留空間を確保するとともに、多様なモビリティ機能の強化（モビリティセンターの整備等）を図っていきます。また、都心周辺から都心地区への主要アクセス路線や、都心地区内における主要施設間を連絡する主要な路線を自転車軸として位置づけ、相互を結ぶ自転車ネットワークの形成を進めていきます。

